

2009年8月31日

株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
 URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

医療用医薬品市場調査(6)

関節・骨疾患治療剤などの国内市場を調査、医療用医薬品市場全体を総括

【抗リウマチ剤市場】生物学的製剤が牽引し急拡大、2008年の市場規模は2000年比約5.5倍
 【医療用医薬品市場 総括】人口減少下でも高齢化が進み患者数は増加、2016年は約8兆円規模に

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、国内の医療用医薬品市場を6分割し2年間で網羅する調査を行ってきた。今回の第6回目はその最終回として、関節・骨疾患治療剤、女性疾患治療剤、泌尿器疾患治療剤、腎疾患治療剤、痔疾患治療剤、ヒト成長ホルモン剤の市場を調査した。

また、第1回～第6回の調査を踏まえて、27疾患・74薬剤領域の市場からなる国内の医療用医薬品市場を総括した。

これらの結果を報告書「2009 医療用医薬品データブック No.6」にまとめた。

<調査結果の概要>

1. 泌尿器疾患治療剤

2008年	2009年見込	2016年予測	2008年比
1,406億円	1,503億円	2,510億円	178.5%

泌尿器疾患治療剤の対象疾患である前立腺肥大症、過活動膀胱、勃起不全は、高齢化と生活習慣病などが発症要因であり、患者数が増加している。泌尿器疾患治療剤の約6割を占める前立腺肥大症治療剤は、前立腺肥大症の認知度が高く処方患者も増加している。過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤は、2006年に日本初となる過活動膀胱の適応治療剤「ベシケア」(アステラス製薬)、「デトルシール」(ファイザー)が発売されたことで急成長している。性機能不全治療剤は、勃起不全の治療患者数が増加せず、また、薬剤の個人輸入が増えていることから市場は縮小している。

【注目市場】

1) 過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤

2008年	2009年見込	2016年予測	2008年比
477億円	556億円	1,080億円	226.4%

過活動膀胱治療剤は、「ベシケア」、「デトルシール」に続いて新製品の上市が相次ぎ、市場が活性化している。中でも「ベシケア」は、2008年には過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤市場の38%を占めるまでに急成長している。

過活動膀胱は高齢化や生活習慣病が発症要因となっていることから、今後も患者数の増加が見込まれる。潜在患者が多いものの、参入医薬品メーカーの積極的な取り組みにより治療患者数が増加し、治療剤市場も大きく拡大すると予測される。

2) 前立腺肥大症治療剤

2008年	2009年見込	2016年予測	2008年比
835億円	864億円	1,380億円	165.3%

トップブランドである「ハルナール」(アステラス製薬)のジェネリック医薬品が2005年に発売された影響で、2006年の前立腺肥大症治療剤市場はマイナスとなった。しかし、2006年に「ユリーフ」(キッセイ薬品工業-第一三共)が発売され、2007年には長期処方が可能となったことから、市場は2007年にプラス回復、2008年もこれを維持した。

「ハルナール」の減少は続くものの、ジェネリック医薬品発売直後ほどではなく、徐々に緩やかになると予測さ

れる。そのため、「ユリーフ」が減少分をカバーする形で、市場の拡大が続くと予測される。

2. 関節・骨疾患治療剤

2008年	2009年見込	2016年予測	2008年比
4,190億円	4,667億円	5,955億円	142.1%

関節・骨疾患治療剤の疾患は高齢者の発症が多く、高齢化が進むにつれて患者数が増加している。関節・骨疾患治療剤市場で規模が最も大きい外用消炎鎮痛剤は、大きなシェアを持つ「モーラス」(久光製薬)が注力度の高い展開と製剤の改良で市場を牽引し、成長を続けている。骨粗鬆症治療剤は、疾患の根治療につながるビスフォスフォネート製剤やSERM製剤が市場拡大を牽引し、両製剤への切り替えが進んでいる。自治体による骨粗鬆症検診も、患者掘り起こしと治療患者拡大に繋がっている。抗リウマチ剤は、生物学的製剤が急成長し、関節・骨疾患治療剤市場において最も伸び率が大きい。変形性関節症治療剤は、近年新たに上市された製剤がなく既存製剤による市場となっているが、変形性関節症の患者数の増加に連動して堅調に推移している。

【注目市場】

1) 抗リウマチ剤

2008年	2009年見込	2016年予測	2008年比
922億円	1,211億円	1,950億円	211.5%

関節リウマチ治療は、生物学的製剤の登場で寛解(かんかい:症状が一時的または継続的に鎮まった状態)を目標とすることが可能になり、大きく進歩した。生物学的製剤は高薬価であることから抗リウマチ剤市場への影響は大きく、2008年の市場は2000年比約5.5倍と急拡大した。また、抗リウマチ剤市場に占める生物学的製剤の割合も年々高まっており、2008年には68%となった。

生物学的製剤以外の抗リウマチ剤では、関節リウマチ治療の第一選択薬として推奨されている免疫抑制剤のメトトレキサートが、生物学的製剤との併用療法により実績を伸ばしている。

抗リウマチ剤市場は今後も生物学的製剤が牽引し、上市される新たな生物学的製剤も含め競争激化が予測される。

3. 女性疾患治療剤

2008年	2009年見込	2016年予測	2008年比
374億円	410億円	422億円	112.8%

不妊症患者数や、経口避妊薬の処方患者数は増加しているものの、その他の薬効領域の患者数は横ばい、もしくは微減となっている。子宮筋腫・子宮内膜症治療剤は、微減が続いていたが、2008年に新製品が相次いで発売され市場が活性化している。排卵障害治療剤は、性腺刺激ホルモン剤の上位製品が発売中止となり、また、ヒト尿由来から遺伝子組換え製品へのシフトが進むという様に市場構造が変化している。切迫早産治療剤・陣痛促進剤は、新製品の発売が見られず出産数自体も減少していることから市場が縮小している。経口避妊薬は、参入企業各社による低用量ピルへの抵抗感を軽減させる取り組みや、ガイドラインの改訂による患者負担減で処方が増えており、市場の拡大が続いている。更年期障害治療剤・月経障害治療剤は、新製品の発売が相次いだ一方、上位製品が発売中止となり、今後の市場動向が注目される。

4. ヒト成長ホルモン剤

2008年	2009年見込	2016年予測	2008年比
500億円	525億円	528億円	105.6%

小児慢性特定疾患治療研究事業による認定患者数の増加や、新たな適応疾患の追加で、減少推移だった市場は2007年に反転しプラス推移となっている。しかし、少子化によって同事業の対象患者数は減少が見込まれることや、適応疾患が増加しても厳格な保険適応基準があることから、市場が大きく拡大するとは考えにくい。

5. 腎疾患治療剤

2008年	2009年見込	2016年予測	2008年比
881億円	910億円	880億円	99.9%

透析液・腹膜透析液は、透析医療費を抑制するため診療報酬や薬価が引き下げられている影響で、伸び悩んでいる。一方、透析液・腹膜透析液以外の腎疾患治療剤(高K血症用剤・高リン血症治療剤・吸着剤・活性型ビタミンD・Ca受容体作動薬)は、患者数の増加や新製品の上市により増加している。透析液・腹膜透析液は今後も低迷

し、透析液・腹膜透析液以外の伸びを相殺することから、市場は2009年をピークに縮小していくと予測される。

6. 痔疾患治療剤

2008年	2009年見込	2016年予測	2008年比
118億円	117億円	113億円	95.8%

長年新製品が発売されていなかったが、2005年に「ジオン」(田辺三菱製薬)が発売され、市場は微減から微増に転じた。しかし、痔疾患は受診に抵抗感を持つ患者が多く、受診数の大幅な増加が見込めない中、人口減少の影響を受け、今後の市場は微減と予測される。

<医療用医薬品市場の総括>

2008年見込+確定	2009年予測+見込	2016年予測	2008年比
6兆7,365億円	6兆9,565億円	7兆9,642億円	118.2%

「2008 医療用医薬品データブック No.1~No.3」分は、2008年は見込値、2009年は予測値を用いています。

2008年の医療用医薬品市場は、薬価改定(引き下げ幅5.2%)があったものの、抗リウマチ剤、抗がん剤で高薬価の新薬が発売されたことなどから、前年比1.5%増の6兆7,365億円だったと見られる。

今後、国内の人口減少や、医療費抑制のための診療報酬や薬価の引き下げなど、市場環境は厳しくなると予想される。しかし、医療用医薬品市場は拡大を続け、2016年には8兆円近くまで成長すると予測される。今後実績を伸ばすのは、糖尿病治療剤、痛風・高尿酸血症治療剤、抗がん剤、抗リウマチ剤、骨粗鬆症治療剤、過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤、前立腺肥大症治療剤など、団塊世代の高齢化により対象疾患の患者数が増加する薬剤領域が多い。さらに、糖尿病治療剤、抗がん剤、抗リウマチ剤といった薬剤領域では、患者数増加だけではなく、新規性の高い薬剤の発売直後、或いは、発売目前となっていることも市場拡大要因となる。また、過活動膀胱治療剤や禁煙補助剤といった薬剤は、今まで治療概念の薄かった疾患に保険適応の薬剤が発売されることで、受診患者数が増加し市場が成長していくと考えられる。

以上

<調査対象>

関節・骨疾患治療剤	抗リウマチ剤、骨粗鬆症治療剤、変形性関節症治療剤、外用消炎鎮痛剤
女性疾患治療剤	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤、経口避妊薬、排卵障害治療剤、切迫早産治療剤・陣痛促進剤、更年期障害治療剤・月経障害治療剤
泌尿器疾患治療剤	過活動膀胱・神経因性膀胱治療剤、前立腺肥大症治療剤、性功能改善剤
腎疾患治療剤	腎疾患治療剤
痔疾患治療剤	痔疾患治療剤
ヒト成長ホルモン剤	ヒト成長ホルモン剤

<調査方法> 富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献による補完

<調査期間> 2009年5月~7月

資料タイトル:「2009 医療用医薬品データブック No.6」

体 裁 : A4判 288頁

価 格 : 160,000円(税込み168,000円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 メディカルグループ

TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-9514 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>